

平成 21 年度 受賞者

高円宮殿下記念地域伝統芸能賞

秩父祭保存委員会（埼玉県秩父市）

地域伝統芸能大賞 保存継承賞（第 1 類）：地域伝統芸能の実演に係わる団体又は個人

藤守の田遊び保存会（静岡県焼津市）

地域伝統芸能大賞 活用賞（第 2 類）：地域伝統芸能を活用した行事の実施主体

登米秋まつり協賛会（宮城県登米市）

地域伝統芸能大賞 支援賞（第 3 類）：衣装、用具等の製作、人材等の確保に係わる団体又は個人

中山 勘治（鳥取県鳥取市）

地域伝統芸能大賞 地域振興賞（第 4 類）：その他特に顕著な貢献のあったもの

庄内神楽座長会（大分県由布市）

地域伝統芸能奨励賞

大田 守邦（沖縄県那覇市）

受賞者 プロフィール

高円宮殿下記念地域伝統芸能賞

秩父祭保存委員会（埼玉県秩父市）

秩父祭では屋台 6 基が重要有形民俗文化財に指定されている屋台 6 基の屋台行事（笠鉦・屋台の曳行、屋台での子供歌舞伎・曳き踊りの上演）や神楽の奉納が行われる。秩父祭保存委員会はそれらの保護団体で、笠鉦・屋台を所有する 6 町会や歌舞伎、神楽、屋台囃子の保護団体並びに秩父神社で構成されている。同委員会は歴史上の由緒・伝統を損なうことなく、その護持・保存・活用に努め、日本を代表する曳山祭りのひとつとして評価されている。秩父祭は毎年 12 月 2 日、3 日に行われるが、特に 3 日の夜は「秩父夜祭」として豪華華麗を極める笠鉦・屋台の曳行と花火が祭りの山場を迎える。この 2 日間の人出は平日で 25 万人、土休日になると 40 万人近くを数え、同委員会は地域文化の活性化や観光振興に大いに貢献している。



地域伝統芸能大賞 保存継承賞（第 1 類）：地域伝統芸能の実演に係わる団体又は個人

藤守の田遊び保存会（静岡県焼津市）

藤守の田遊びは平安時代初期、大井川の水霊を鎮守することから始まったと言われており、多年にわたり地域住民の中で受け継がれ、年の豊年を予祝し、平和と実りを祈って夜行う田遊び。「天狗」、「畝入」、「鳥追」、「田植」、「早乙女」、「猿田楽」、「稲刈」など、25 番組の地域の特色を生かした

この舞は、総じて華やかさを持っている。また舞を演ずるのが未婚の青年とされており、現在主に中学生、高校生が行っている。藤守の田遊び保存会は年に一度、3 月 17 日大井八幡宮での奉納に向けて日々の練習に地道な努力をしており、この芸能に携わる青少年の健全育成の面でも貢献している。田遊び奉納日には県内外から多数の観光客が訪れ、観光・地域事業者の還元にも寄与している。



地域伝統芸能大賞 活用賞（第 2 類）：地域伝統芸能を活用した行事の実施主体

登米秋まつり協賛会（宮城県登米市）

延宝 3 年（1675 年）より、登米神社の秋の大祭に、山車十数台が繰り出され、その山車に付けて賑やかに囃されてきたのがとよま囃子。「とよま型」の山車に「とよま囃子」七曲を古態のまま伝承し、保持している。登米秋まつりの主役である「山車」の制作は、毎年新たに各町内会で題を決め作成している。協賛会はこの祭りの保存伝承と育成に努め、郷土芸能の振興に寄与することを目的に昭和 49 年に組織された。また、宵祭りに奉納される「薪能」は東北においても数少なく、幽玄にして格調高い。祭りは年々盛り上がり、近隣市町村はもとより県内外からも多くの観光客が訪れている。



中山 勘治（鳥取県鳥取市）



麒麟獅子舞は鳥取の初代藩主池田光仲公が慶安3年（1650）に創出したと言われ、県東部の祭りでは各地区の個性豊かな麒麟獅子舞を見ることが出来る。「麒麟」という中国の霊獣を頭を持つ獅子舞は全国的に珍しく、因幡や隣接する兵庫県の一部地域、北海道でしか見られない因幡地方固有の伝統芸能。中村勘治氏はこの麒麟獅子舞の頭を県内で唯一制作している。同氏は麒麟獅子舞という貴重な風習が後世に受け継がれるようにと、獅子頭の復元制作、修理を行うほか、ミニチュアの置物、壁掛け等も制作している。85歳という高齢にも係らず元気で活躍されているが、2005年には弟子を受け入れ、後継者の育成にも励んでいる。

庄内神楽座長会（大分県由布市）



明治初期に、高津の佐藤菊太郎氏が浅草流犬山神楽の伝授を受け、近隣の人々と一座を（高津神楽）を組織したのが始まりといわれる。その後、出雲の神楽の技法を取り入れて庄内地区の神楽が確立された。庄内町に古くから伝わる郷土芸能「庄内神楽」を、町に残る12の神楽座総出演で披露する神楽の祭典。それぞれの神楽座により、伝承された演目や太鼓の叩き方などに違いがあるが、どの流派も昔から地区の人に愛され、舞いは勇壮でテンポが早いのが特徴。又、舞いの中で、道化役が観客の中に入り込んでいくアドリブがありユーモラスな一面も持っている。

大田 守邦（沖縄県那覇市）



琉球舞踊は、琉球で創作され伝承されている舞踊で、「こねり手」と呼ばれる所作が中心をなしており、一般的には民俗的舞踊、古典舞踊、雑踊に分類されている。組踊は江戸時代、玉城朝薫が中国からの冊封使歓待のために作った音楽、舞踊、台詞を取り入れた沖縄独特の楽劇。大田守邦氏は玉城流玉扇会の創始者の曾孫、二代目家元の長男。幼少の頃から祖父や母の後姿を見て琉球舞踊に取り組んでいる。着実に技能を受け継ぎ、県内外、海外の舞台にて琉球舞踊を披露している。現在、沖縄県組踊伝承者に認定されている。